



小田原なぎさ会通信

No.38

2025年4月1日発行

私たちは、「精神に障害を持つ皆さんをはじめとして、色々な障害を持つ皆さんが誇りある社会の一員として自立した生活を送ること」を支援する活動をしています。①施設の設置・運営、②普及・啓発、③関連先との連携、が事業の中心です。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

つながりを広げ、更なる連携・協働へ

理事長 乾 恒雄



新型コロナウイルス感染症は、実質的な「With コロナ」の状況に入ったと感じております。一方で、他の感染症が急に感染拡大する動きなどもあり、各種感染症の状況をしっかり確認しながら活動を推進しております。

昨年度も基本方針として「現在取組み中の活動継続とその内容充実に重点を置く」ことを掲げて活動を推進し、殆どの活動はコロナ禍前の状況まで回復しています。

この1年を振り返りますと、最も大きな動きは「自主製品エコマグネット」の販売急伸です。コロナ禍での創出から5年が経ちますが、昨年度の販売数は以前に比べて3倍超と爆発的な伸びを示しました（詳細次ページ参照）。これも私たちの障害福祉活動や SDGs への取組みに共感していただける皆様のおかげであり、感謝いたします。SDGs の視点では、昨年度に受賞した神奈川県 SDGs 企画「みんなの SDGs 賞」の反響が今なお続いており、障害福祉の分野に留まらず新しいつながりや連携・協働が生まれ始めています。これらの出会いやつながりを、更に効果的に発展させていきたいと思います（詳細次ページ参照）。

施設運営では、従前同様に「気軽に立ち寄れる居場所作り」と「本人の希望や特性を配慮した相談支援・就労支援」を活動の2本柱として取組んでいます。安定した歩行が困難になってきている利用者が見受けられ、無料送迎サービスを開始しました（詳細次ページ参照）。この対応に対して、来年度から小田原市が相応の補助金を加算していただけることになり、とても有難く感じております。今後も利用者の多様化が進むと捉え、この様な方々に対して更に適切な支援の必要性を感じています。一方「誰一人取り残さない支援」の実現に向けた取組みはまだ道半ばであり、この道を少しずつでも前進させていきたいと考えます。尚、施設名称は「小田原なぎさ作業所」から、時流を捉えシンプルな「なぎさ」に変更しました。

「普及啓発は私達の活動の原点」であり、会員数134名にまで『活動の輪』が広がっています。今後も引き続き普及啓発に注力していきたいと考えています。多様性の社会の中で「障害を持っている皆さんも大切な私たちの仲間として共に暮らす地域・社会を作り上げていく動きを広げていきたい想い」を大切に、1人でも多くの皆様と共に、このような市民・社会活動を広げていきたいと思います。



上記の想いや私たちの活動は、「SDGs」にも
①福祉の促進や差別の解消・不平等の是正、②自然環境の保護及び回復（持続可能な生態系や森林の保護・回復、気候変動の軽減等）への取組みによる『誰一人取り残さない』持続可能で多様性と包摂性のある社会を目指す思想など、深いつながりをしていると捉えています。



これからも私たちの活動にご理解とご協力、そしてご協働をよろしくお願いいたします。

このページでは、私たちの法人活動や運営施設「なぎさ」での各種活動・イベントなどの様子を中心に紹介させていただきます。

SDGs パートナー活動と新たな連携・協働の始まり

神奈川県及び小田原市のSDGsパートナーとして、障害福祉分野を中心に各種活動に取り組んでいます。

かながわSDGsパートナー取組み

神奈川県SDGs企画『みんなのSDGs賞』（障害者が作るアップサイクル自主製品エコマグネットにて応募）受賞から約1年経ちますが、「かながわSDGsパートナーミーティング」に参加するなど、引き続き継続した取組みを進めています。特に活動分野を超えた企業や団体とのコンタクトから新しい連携や協働も始まりそうです。

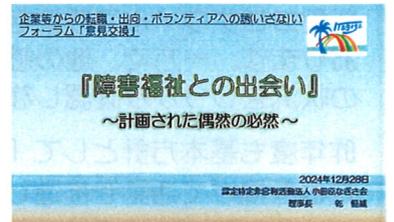
おだわらSDGsパートナー取組み



「おだわらSDGsパートナー交流会」（2024年11月8日開催）に登壇させていただき、私たちの障害福祉活動と共に「エコマグネット」に関するお話をさせていただきました。約50社が参加される中、登壇直後に即刻でエコマグネット発注のために多くの企業が列を作ってくださいました。この登壇が下記のエコマグネット販売急伸につながり、現在もリピートオーダーを含めて発展中です。このような発信の場を与えていただきました小田原市及び関係機関に感謝すると共に、今後も当法人の発信や活動が更なるSDGs推進につながるよう励んでいきます。

神奈川県庁との連携・協働の始まり

神奈川県福祉子どもみらい局から依頼を受け、①工賃向上に関するセミナー（7/16）②セカンドキャリアとしての福祉活動に関するセミナー（12/28）に登壇させていただき、私たちの活動に関する発信などをさせていただきました。このような形からも連携や協働が始まっています。



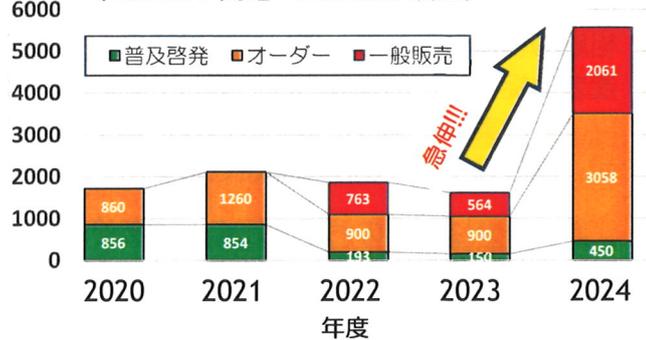
引き続き、SDGsへの取組みや行政機関などとのつながりを深める中で、活動分野や立場の違いに捉われないことなく広く連携・協働を推進し、私たちの活動を発展させていきます。

エコマグネット販売拡大と製作権利無償譲渡(2)

2024年度 エコマグネット販売が急伸!!!

コロナ禍の中、運営施設での作業継続を目指して創出したアップサイクル(Upcycle)自主製品『エコマグネット』は、2024年度に上記SDGsの取組みを通して爆発的な販売拡大を達成しました。特に、各種企業からのオーダー(右グラフのオレンジ色)が相次いで、対前年度で3倍超の販売にまで伸び、一般販売も大きく伸ばすことができました。製作総数は『1万個超!!!』に飛躍しました。

エコマグネット製作数の年度別推移 (2020.7開始～2025.3現在)



他の障害福祉団体へ製作・販売権利を無償譲渡



「製作及び販売を希望する他の活動団体でもエコマグネットを活用していただくことで、障害福祉推進のお役にたてれば嬉しい!!!」との想いから、当法人内に留めず『他の障害福祉団体へ広く権利を開放することを決断』し、今までに就労継続支援B型事業所を運営している団体への無償譲渡を完了しました(権利譲渡第1号)。現在更に2団体からの申入れを受け、無償譲渡の方向で事前準備を進めています。

「エコマグネット」を通して、私たちが取り組んでいる障害福祉活動を広く認知していただくと共に、その製作販売権利を開放することで、当法人運営施設の利用者だけでなく、他の障害福祉団体の利用者に対しても作業確保と工賃アップなどへの間接的な貢献を進め、障害を持つ方々の支援を更に広げて行きます。

医療・福祉教育機関との連携強化

連携・普及啓発事業の一環として、県立平塚看護大学から2種類の学生実習を受入れ初めて6年が経ちます。今回は通年学習の「地域密着健康教育」について2024年度の実施内容を紹介します。



学生作成ポスター

本実習では、3年次の学生グループ(7名程度)が何度も当法人を訪れ、役員や職員との会話と共に施設での作業を利用者と一緒にこなうことを通して、法人の理念や位置づけ及び実際の活動内容を体験的に理解しながら、学生自身で考えたイベントを企画から実施まで主体的に行い、地域での障害者支援の実態を多面的に学んでいきます。

昨年は「わくわく秋の大運動会」と題した秋のイベントを様々な角度から情報収集・分析して、上手く形にさせていただきました。参加した誰もが健康的で楽しいと感じ、身体の健康だけでなく、心の健康についても意識を高めるきっかけになりました。

利用者みなさんも積極的に参加して、みんなで大いに盛り上がり、良いリフレッシュの機会にもなりました。実習を終えた学生みなさんがこの学習体験を通して自らの学びにつなげていただけると幸いです。



【学習結果の報告会に出席して】グループごとに企画の発表がありました。強く印象に残ったのは、全てのグループが企画のまとめに「報告・連絡・相談」「ほう・れん・そう」といったビジネス用語を多く使っていたことです。このワードはコミュニケーションスキルを高める重要な社会人の必須スキルと認識していますが、各発表を拝聴しこの事を再認識する機会になり、私自身も大きな学びと成長につながったと感じています。
担当理事兼職員：浜田真由美

施設運営の状況(地域活動支援センター なぎさ)

①送迎サービス本格始動



当施設では自力で通所することを基本としていますが、高齢化や病気のために安定した歩行が困難になり、自力での通所が難しくなってきた利用者が見受けられるようになってきました。このような利用者への支援の一環として、法人車両を使った職員による送迎トライアルを2022年から開始しました。その後、本格的な送迎サービスへの移行に向け運転手を募ったところ、幸運にも送迎業務を快く引き受けていただけの方が見つかりました。このような流れを経て、昨年10月から「送迎が必要と判断する利用者」を対象として、無料送迎サービスを開始しました。利用者からも大変喜ばれており、利用者寄り添った支援を引き続き心がけていきます。

②農作業(野菜)… 2025年春～新たなチャレンジ



植え付け作業終了

本年3月から近隣の畑をお借りすることが出来ました。利用者の皆さんと話し合った結果、畑体験の経験を活かして「できる限り自分たちの力で農作業にチャレンジ」することに決めました。まずはジャガイモを作ることにして、種芋作りから始め、畑を耕し、植え付け後に黒いビニールを被せる所まで実施しました。芽が出てきたらビニールのカットや間引きを行ない、収穫を待つこととなります。その間定期的に生育の過程を確認していきます。どんな出来具合か今からみんなで楽しみにしています。

<植え付け作業に参加した利用者さん達の声>

- ・なぎさの近くに畑が借りられて良かったです。又、ジャガイモを植えて収穫できるのが楽しみです。 T.Rさん
- ・じゃがいもを間隔をあけて埋めていくのが楽しかったです。 S.Yさん
- ・じゃがいもを植えて土をかけて芽が出るのが楽しみです。 K.Sさん



種芋のカットから

～みんなの短歌(7)～

施設利用者の皆さんが作った短歌を少しずつご紹介しています。



- ・作業所はみんな優しく嬉しいな人間不信治りそうだよ Y.Sさん
- ・スマホ持ちわからないこと検索しすぐに解決便利になった K.Hさん

事務局からのお知らせ

認定NPO法人小田原なぎさ会では、毎月下記のような様々なイベント等を企画しております。会員の皆様のご参加を心よりお待ちしております。お問い合わせは事務局までご連絡願います。

●今までの主な活動（R6年10月～R7年3月）

10/1	機関紙小田原なぎさ通信 No.37 発行	12/8	おだわらつながる福祉展参加（Iマガ 販売）
10/4	赤い羽根共同募金参加（共同募金会主催）	12/13	楽しい音楽会参加（市事連主催）
10/6	富士見スポーツフェスティバル参加	12/18	第3回地域ネットワーク会議（広域）開催
10/13	国際医療福祉大学「潮風祭」参加（Iマガ 販売）	12/20	クリスマス地域交流会開催
10/26	おだわらハートフェスタ参加（啓発・Iマガ 販売）	12/28	協働キャリアとしての福祉活動セミナー登壇（県主催）
11/8	おだわらSDGsパートナー交流会参加・登壇	1/19	社協新春の集い参加（小田原市社会福祉協議会主催）
11/10	新田公民館文化祭参加（啓発展示）	2/28	曾我山みかん収穫体験開催
11/16・17	おだわらツデーマーチ参加（Iマガ 販売）	2/28	地域精神保健福祉協議会出席（保健福祉事務所主催）
11/22	県精連ハートメッセージ参加（見学・Iマガ 販売）	3/12	令和6年度 第3回理事会開催
11/24	第9回 UMECO 祭参加（啓発展示・Iマガ 販売）	3/18	ボウリング大会参加（小田原白梅ライオンズクラブ 主催）

●今後の主な活動予定（R7年4月～R7年9月）

4/1	機関紙 小田原なぎさ会通信 No.38 発行	7/8	第2回地域ネットワーク会議開催
4/21	かながわSDGsパートナーミーティング参加	7/24	富士見地区ポイ捨て防止キャンペーン参加
4/24	令和7年度 第1回理事会開催	8/9	新田公園夏祭り参加（啓発・Iマガ 販売）
5/27	2025年（令和7年）度通常総会開催	9/1	施設内自主防災訓練実施
6/10	第1回地域ネットワーク会議開催	9/9	第2回理事会開催
6/中旬	農作業（収穫）実施	9/26	第12回なぎさ祭開催

●小田原なぎさ会への入会のご案内と寄附について

★会員募集中：一緒に障害を持つ皆さんの多面的な支援を進めましょう！

会員になっていただくことで、障害者の支援活動につながります。大切に考えていることは『皆さんの想いや心であり、仲間意識』なのです。直接的な活動の時間確保を求めるようなことはありません。

◆小田原なぎさ会会費について

- ・正会員：（個人）入会金0円 年会費2,000円（団体）入会金0円 年会費10,000円
- ・賛助会員：（個人）入会金0円 年会費1,000円/口（団体）入会金0円 年会費5,000円/口

★「寄附」というかたちで、小田原なぎさ会の活動を応援願います！

当法人は『認定NPO法人』及び『指定NPO法人』を取得しています。寄附をしていただきますと申告することで、国税と地方税をあわせて寄附金額の最大50%が税額から控除されます。また、法人様からのご寄附の場合には損金算入限度額が拡大されます。

≪令和6年度（R6年4月1日～R7年3月31日）に頂戴致しました寄附金額のご報告≫

件数10件 総額380,000円 誠にありがとうございました。

会費・寄附の振り込みは下記口座へお願いいたします。会費支払いには、便利な口座振替（年1回自動引き落とし）もごさいます。詳しくは事務局までお問い合わせください。

■ゆうちょ銀行 記号10970 番号34276131 トクヒ) オダワラナギサカイ

*他銀行から振り込みの場合 (店名)〇九八(ゼロキュウハチ) (店番)098 普通貯金3427613

■さがみ信用金庫 南鴨宮支店(普)0226591 トクヒ) オダワラナギサカイ

次号(No.39)は令和7年10月に発行予定です。当機関紙の感想や障害福祉に関する情報等がありましたら、下記メールアドレス(o-nagisa@nifty.com)までお寄せ願います。これからも、更に多くの皆様に愛される「小田原なぎさ会通信」を目指し、より良い紙面作りに努めてまいります。

発行：認定NPO法人 神奈川県・小田原市指定NPO法人 小田原なぎさ会

〒250-0875 小田原市南鴨宮3-16-20 2F

Tel/Fax 0465-47-4513

E-mail o-nagisa@nifty.com

ホームページ <https://www.nagisakai.org/>

Facebook <https://www.facebook.com/odawaranagisakai>

小田原なぎさ会のホームページをご覧になるには

検索サイトで「小田原なぎさ会」と入力いただくか
右のQRコードをスキャンでアクセスできます

